

# 罪，福音，律法





わたしはあなたの命令をとこしえに  
忘れません／それによって命を  
得させてくださったのですから。

わたしはあなたのもの。  
どうかお救いください。あなたの  
命令をわたしは尋ね求めます。

(詩編 119:93, 94, 新共同訳)



わたしは常にあなたの  
さとしを忘れません。  
あなたはこれをもって、  
わたしを生かされたからです。  
わたしはあなたのものです。  
わたしをお救いください。  
わたしはあなたの  
さとしを求めました。

(詩編 119:93, 94, 口語訳)

受け入れるかどうかに関わらず、罪は私たち全員に影響を及ぼし、神との関係を破壊する問題です。「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっているからです」（ロマ3:23）。

罪によって神と私たちの間に生じた隔たりを、どうすれば修復できるのでしょうか。この問題に対して、2つの解決策が提唱されてきました。一つは「律法のみ」（行いによる救い、律法の役割に対する誤解）であり、もう一つは「福音のみ」（信仰による救い、律法の廃止）です。

正しく理解すれば、律法と福音は相反するものではなく、むしろ、私たちが罪と戦う上で互いに補い合う関係にある。それぞれに独自の役割があるのです。



- 🍌 気晴らしと誘惑
- 🍌 神との関係における砦

罪



📖 律法（と罪）

律法



✝ 律法と福音  
✝ 知る事「と」  
行う事

福音





罪



# 気晴らしと誘惑

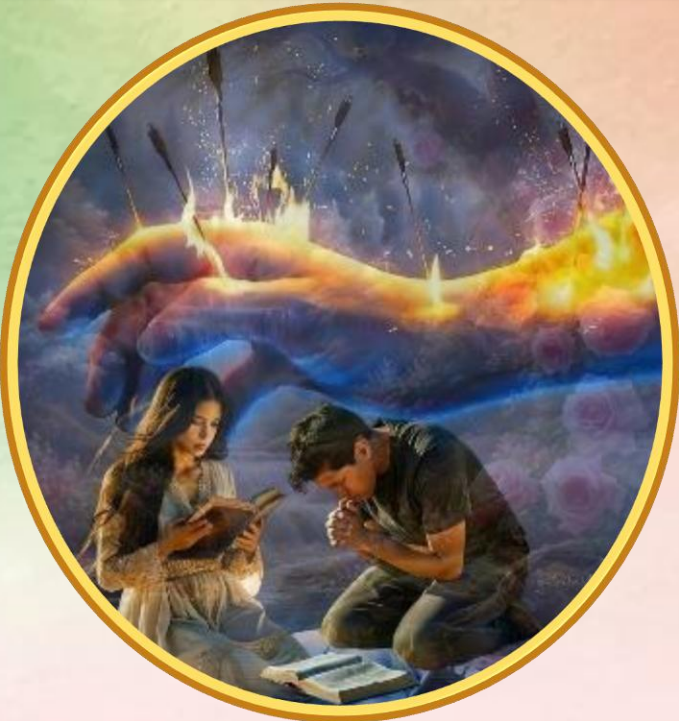
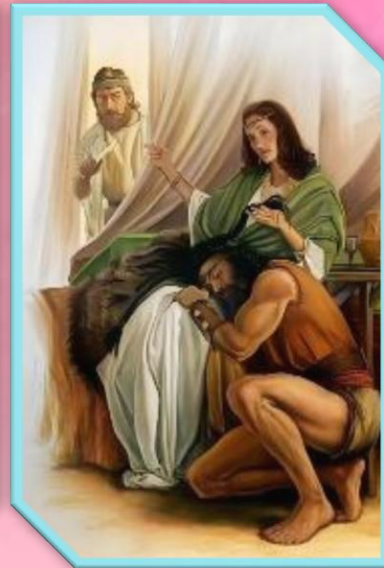
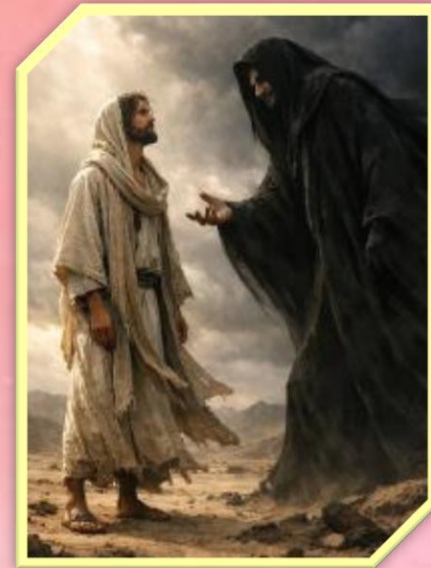
むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです。(ヤコブ 1:14)

ヤコブは、誘惑に打ち勝つ者を「幸いである」と呼んでいます(ヤコ 1:12)。しかし、彼は、誘惑は神から来るものではなく(ヤコ 1:13)、むしろ私たち自身の邪悪な欲望から生じるものであると明確にしています(ヤコ 1:14)。

パウロは「誘惑者」について語っています(1テサ 3:5)。イエスはこの者をサタンであると明かされました(マタ 4:3, 10)。サタンこそ、私たちの弱さを利用して罪へと誘い込む術を誰よりも熟知しているのです。私たちは、キリストとサタンとの間の宇宙的な戦いの渦中にあり、誘惑者が私たちをキリストから引き離すためにあらゆる手段を講じてくることを決して忘れてはなりません。

サムソンは、それが神の御心に反することを知りながらも、感情に流されて誘惑に負けてしまった人物の典型的な例である(士師 14:1-3、16:1.4)。

誘惑を避けるにはどうすればよいでしょうか。神を求めること(マタ 6:33)、神と2人きりで過ごすこと(マコ 14:38)、信仰の盾を手にとることです(エフェ 6:16)。



今、あなたはどんなことで悩んでいますか。  
神の言葉は今、どのようにあなたを  
助けることができるでしょうか。

# 神との関係における砦

もし片方の目があなたをつまづかせるなら、えぐり出さない。両方の目がそろったまま地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。(マルコ 9:47)

イエスは、罪を避けるよう私たちに明確な教えを残されました：



罪を犯すきっかけになりかねないことは避けなさい (マコ9:43、ヨブ23:12)。例えば、お酒を買うことなどです。

罪を犯してしまう恐れのある場所には行かないようにしましょう (マコ9:45、ヨブ23:11)。例えば、ナイトクラブなどです。

罪を犯すきっかけになりかねないものは見ないようにしましょう (マコ9:47、ヨブ31:1)。例えば、わいせつな場面を含む映画などです。



罪を犯すことは当然ですが、出来る限り罪の誘惑を避けることです。そのことについて祈りなさい。

- 1 「自分は大丈夫だ」と思ってはならない (1コリ 10:12)
- 2 自分がどれほど優れているかを人々に自慢するのはやめ、イエスのように謙虚になりなさい (マタ6:2)
- 3 自分の心から欲望を根絶するために、必要なことは何でもしなさい (マタ5:28-29)
- 4 他人を批判したり、裁いたりするのはやめましょう (1コリ 4:5)
- 5 敵を憎んではならない。むしろ、彼らのために祈りなさい (マタ5:44)
- 6 周りの人たちに怒るのをやめなさい (マタ5:22)

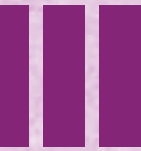
イエスは、私たちの手、足、目が私たちに罪を犯させるとき、どうすべきかについて警告されました。イエスは何について警告しておられたのでしょうか。

マルコ**9:42~48** を読んでください。

**9:42** 「わたしを信じるこれらの小さな者の一人をつまずかせる者は、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がはるかによい。 **9:43** もし片方の手があなをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両手がそろったまま地獄の消えない火の中に落ちるよりは、片手になっても命にあずかる方がよい。 **9:44† 9:45** もし片方の足があなをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。両足がそろったままで地獄に投げ込まれるよりは、片足になっても命にあずかる方がよい。 **9:46† 9:47** もし片方の目があなをつまずかせるなら、えぐり出しなさい。両方の目がそろったまま 地獄に投げ込まれるよりは、一つの目になっても神の国に入る方がよい。 **9:48** 地獄では蛆が尽きることも、火が消えることもない。



# 律法



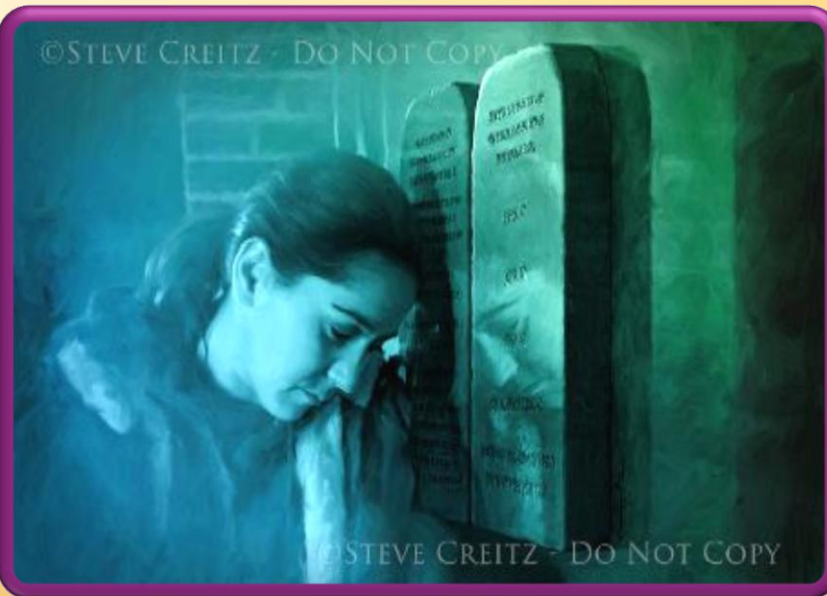
# 律法（と罪）

罪を犯す者は皆、法にも背くのです。  
罪とは、法に背くことです。(1ヨハネ 3:4)



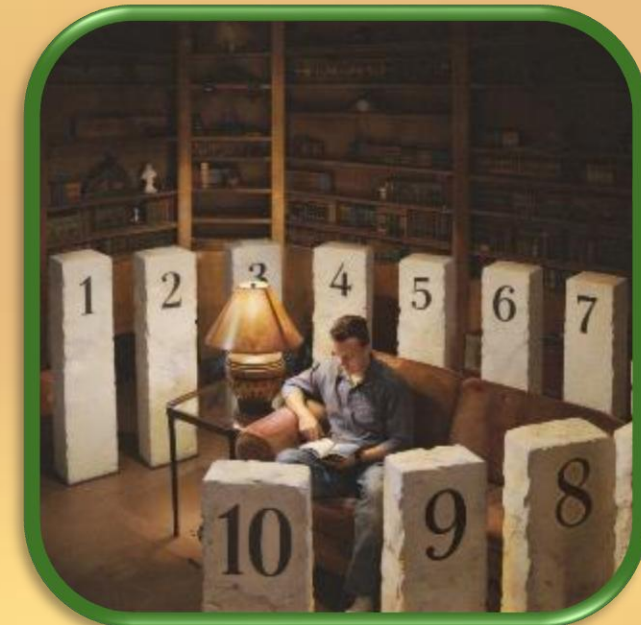
律法と罪との関係について、律法を守ることによって自分の罪を贖うことができると考える人々によって、誤解されてきた（ガラ5:4）。この考えは、律法は廃止されたという、正反対の極端な立場へと人々を導いてしまった。

問題は、律法が救いに関連している、すなわち救いを得るための手段であるか、あるいはその妨げであるかと考えてきた点にある。しかし、律法の機能は決して救済的なものではなかった。では、その機能とは何なのか。



律法は、私たちに罪を明らかにします（1ヨハ3:4）。律法がなければ、私たちは罪とは何かを知ることができず（ロマ7:7）、したがって、解決策を求めることもないでしょう（ガラ3:24）。

律法は決して重荷などではなく、私たちが罪の恐ろしい結果を被るのを防ぐ、守りの柵なのです（1ヨハ5:3、詩1:1-3）。



(1) 1から5の尺度で答えるとして、  
生ける御言葉(とその一部である律法)は、  
あなたにとってどれほど貴重ですか。

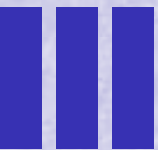
(2) 神の律法について考えるとき、  
それはあなたを束縛するものですか。

それとも、強めるものですか。

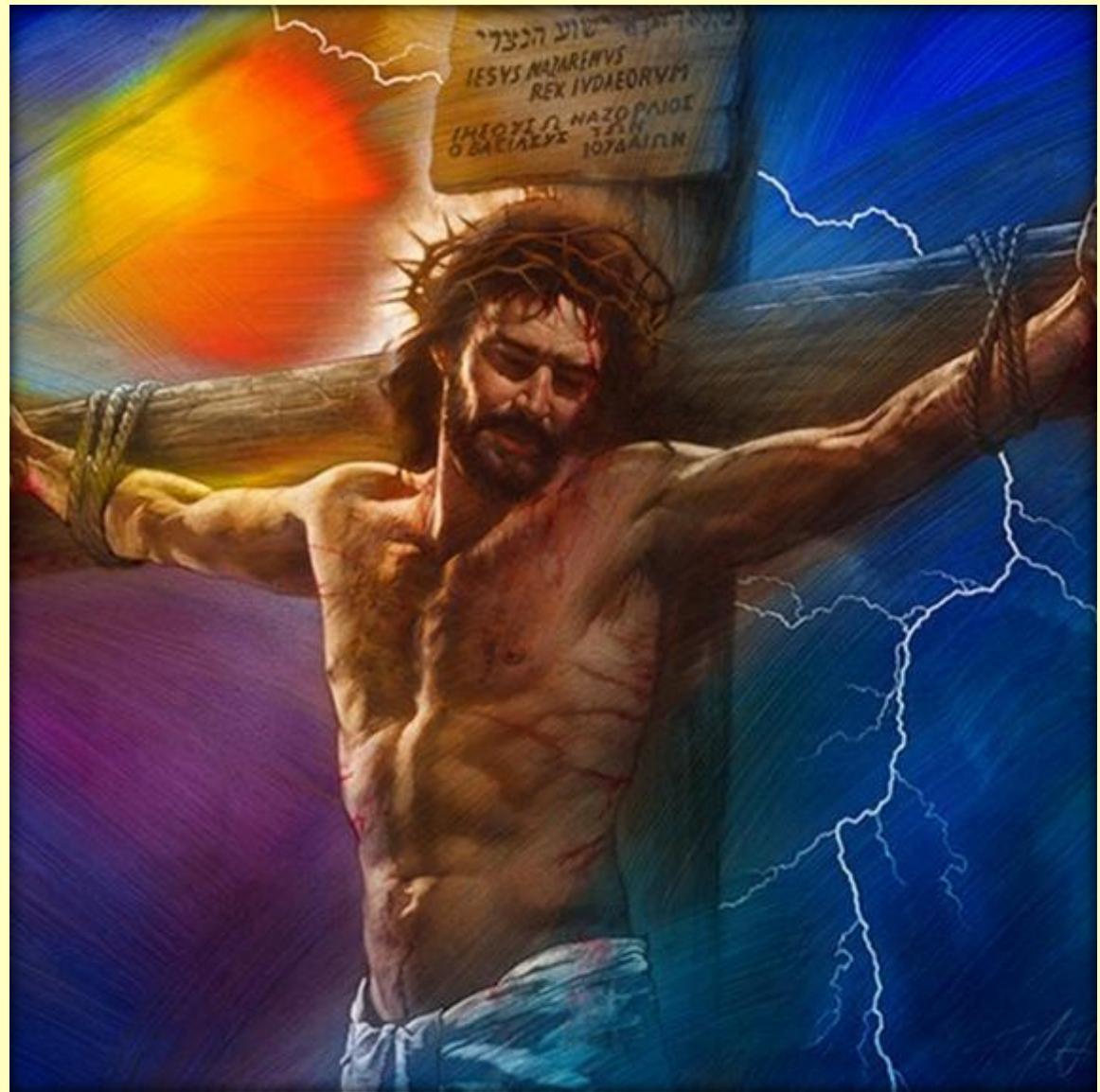
もし前者に当てはまる場合、どうしたら  
律法をもっと深く理解できるでしょうか。

(3) 神とほかの人への愛という神の律法が、  
もしあなたの人生、家族、教会の中心に  
据えられたら、何が起こるでしょうか。

あなたの人生と人間関係は、  
どのように変わるでしょうか。



# 福音

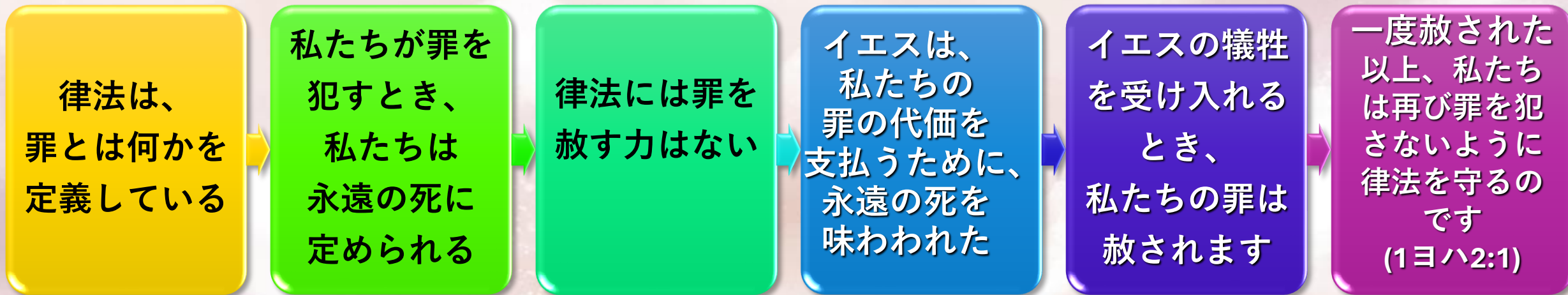


# 律法と福音

なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。(ローマ 3:28)

私たちの救い（罪の赦しと永遠のいのち）は、イエスが十字架の上で私たちのために成し遂げてくださった御業によって得られるものです（ガラ3:13）。それゆえ、私たちはイエスを愛さずにはられません（1ヨハ4:9.19）。そして、私たちはまさにその戒めを守ることで、この愛を表すのです（ヨハ14:15）。

それでは、律法と福音（すなわち、イエスの血による救い）との関係について振り返ってみましょう：



イエスは律法を廃止しようとしたのではなく、それを確かなものにされたのです（マタ5:17）。律法も福音も、神の御性質そのものである「愛」を映し出しているのです。

次の聖句を読んでください(ロマ**3:28**、**4:13~16**、ガラ**2:16**、**3:13**、フィリ〔ピリ〕**3:9**)。これらの聖句は、私たちが律法主義に陥ることなく律法を守るために、  
どんなことを教えていますか。

ロマ**3:28** (新共同訳) **3:28** なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。ロマ**4:13~16** (新共同訳) **4:13** 神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせることを約束されたが、その約束は、律法に基づいてではなく、信仰による義に基づいてなされたのです。 **14** 律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰はもはや無意味であり、約束は廃止されたことになります。

**15** 実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯もありません。

**16** 従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者となるのです。恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。彼はわたしたちすべての父です。ガラ**2:16** (新共同訳) **2:16** けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。ガラ**3:13** (新共同訳) **3:13** キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。フィリ**3:9** (新共同訳) **3:9** キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

# 知ること「と」行うこと

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。  
(マタイ 7:24)



福音を受け入れるには、あるプロセスを経る必要があります。その第一歩は「知る」ことです。私たちを贖うお方がおられることを知らなければなりません (ロマ10:14)。

しかし、知識だけでは私たちは救われません。イエスは、救いの知識を受けながらも福音の原則を実践しない人々を、砂の上に家を建てた人に例え、「その倒れ方はひどいものだった」 (マタ7:26-27) と語られました。



知識には具体的な行動が伴わなければならない (マタ7:24-25)。  
私たちは律法の行いによらず義と認められる (ロマ3:28) が、救いの結果として、そうした行いが私たちの生活の中に現れることが必要である (マタ7:18-21)。

私たちがイエスを受け入れ、主と親密な関係を築き、主の戒めを守る時、私たちは岩の上に家を建てているのです。



山上の説教を締めくくるときに、イエスは痛烈な最後の挑戦を聞き手に残されました。それはどんな挑戦でしたか(マタ7:24～29参照)。

7:24 「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行おう者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。7:25 雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。7:26 わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。

7:27 雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」7:28 イエスがこれらの言葉を語り終わられると、群衆はその教えに非常に驚いた。

7:29 彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

「人間を神の律法の原則に調和させることによって神と和解させるのは、改心と清めの働きである。初めに、人間は神のかたちに創造された。人間は、神の性質と神の律法とに完全に調和していた。義の原則が、彼の心に書かれていた。しかし、罪が、彼を創造主から引き離した。彼は、もはや、神のかたちを反映しなくなった。彼の心は、神の律法の原則と争うようになった。

「肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである」（ローマ8章7節）。しかし、神は、人間が神と和解することができるように、「そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」。人間は、キリストの功績によって、創造主との調和を回復することができるのである。彼の心は、神の恵みによって新しくされなければならない。彼は、上からの新しい生命を受けなければならない。この変化が新生であって、これがなければ「神の国を見ることはできない」とイエスは言われるのである。」